

消費者のみなさんとの交流をつうじて

千葉県漁協女性部連絡協議会
会 長 鈴木 敏子

1. 地域の概要

千葉県漁協女性部連絡協議会がある千葉県は、三方を海に囲まれ、冬暖かく夏涼しい海洋性の温暖な気候です。特に南房総沿岸は、沖合いを流れる黒潮の影響を受け、冬でもほとんど霜が降りません。中でも内湾地域は、東京湾を臨み、大消費地に隣接する。

2. 漁業の概要

千葉県は、周囲に内湾性と外洋性の海域を有し、変化に富んだ豊かな漁場に恵まれ、房総半島の沖合いでは黒潮と親潮が交わることなどから、さまざまな魚介類が水揚げされている全国有数の水産県です。

銚子・九十九里地域は、イワシを主体としたまき網漁業、カレイ、イカなどを漁獲する底曳き網漁業などが行われ、夷隅地域から安房地域にかけては、マダイ、ヒラメなどに恵まれているほか、アワビ、サザエ、イセエビなどの天然の生息場があり、沿岸漁船漁業や磯根漁業が盛んです。

また、東京湾は静穏で漁場豊度が高く、ノリ、アサリ、カレイ、スズキなどが豊富に水揚げされています。

3. 研究・グループの組織と運営

千葉県漁協女性部連絡協議会は、県内 13 漁協女性部 1,497 名から構成され、会長、副会長 2 名、役員 4 名、監事 2 名が中心となって活動している（表 1）。

地域で水揚げされた魚介類の消費拡大のため、各地域で行われている産業祭等への積極的参加や、地域・都市部での消費者や子供を対象とした料理講習会・交流会にて、魚のさばき方や郷土料理・オリジナル料理の紹介により「魚食普及」の推進と「無公害せっけん」の使用普及を継続的に実施している。

表 1 組織の概要

地区名	会員	部員
木更津	7	432
安房	—	—
夷隅	3	839
銚子・九十九里	3	226
合計	13	1,497

4. 研究・実践活動課題選定の動機

女性部組織づくりと活動の活性化、魚食普及活動の推進、各種運動への参加協力、海を守る運動、後継者育成、生活設計などの活動を行っている。

これらの活動のうち、私たちの活動の中心的な「魚食普及活動の推進」について、県関係機関の協力を得ながら私たちが取り組んできた活動について整理した。

また、消費者のみなさんとの料理講習会を通じて得られたアンケート結果を有効に活用する方法を検討し、今まで活動を継続していくうちに築きあげてきた女性どうしのネットワークを活用して、水産物消費拡大を目指した経済活動へ結びつけるための検討をしたので、その一部について説明する。

5. 研究・実践活動状況及び成果

私たちは、魚料理講習会を開催し、地域での魚消費の拡大に努め、各地域で行われている産業祭等に参加し、魚料理の実演、販売をして魚食普及活動に努めてきました。また、県は平成14年度から、漁村と都市住民との料理教室を通じた交流活動として「浜の女性活動促進事業」を実施し、私達の行っている「魚食普及活動」との接点が多く、事業に協力してきた。この事業や私達の魚食普及活動を通じ、「消費者のみなさんとの交流」とおとして、消費者のみなさんからアンケート調査を行った。なお、私が参加した平成15年度浜の女性活動・第13回千葉県協同組合女性交流会（平成17年7月開催）のアンケート結果について解析した。

(1) 平成15年度浜の女性活動促進事業（生活協同組合ちばコープ君津地区センター地区ネット（あさりちゃんクラブ）、木更津地区漁協女性部連絡協議会）

2回の交流会を木更津市・君津市でそれぞれ開催した。第1回は平成15年7月3日に木更津市内で実施し、浜の料理の紹介（調理実習、会食）や、意見交換など28名（消費者17名、漁業者11名）で交流会を行った。第2回は、平成16年2月25日に君津市内で実施、漁村地域の見学や消費者からの食の情報提供（試食会）などを行った。第1回目交流が終了した時点で交流会についてアンケート調査を実施し、アンケート調査結果についてテキストマイニングによるコメント分析を行った（テキストマイニング；文章を分析する技術）。

テキストマイニングによるコメント分析は、消費者のみなさんから集めたアンケート調査結果を、日本語形態素解析システム茶筌 version2.1 を用いて単語の分解し、分解された単語を藤井他(2005)に従い、右記の品詞のみを抽出した。抽出された品詞を polaris というツールを用いてキーワードごとの結びつきを図1に示した。

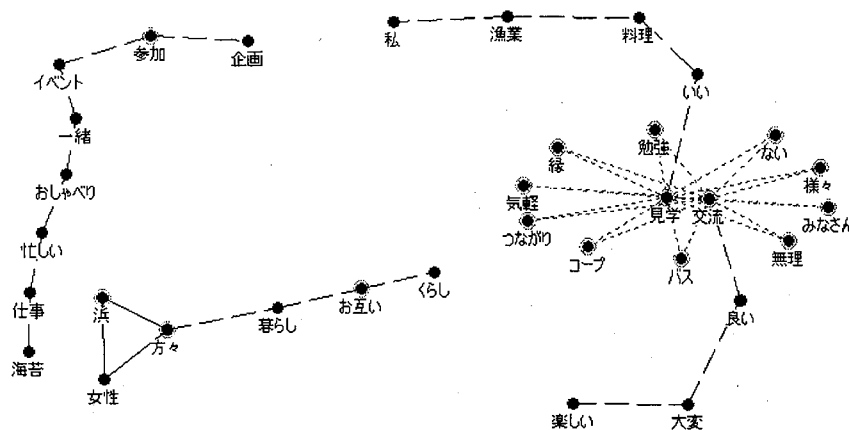


図1. 平成15年度交流会によるテキストマイニングによるコメント分析結果

この図を解析すると、見学、交流を中心として勉強、縁、気軽、つながり、コープ、バス、無理、みなさん、様々、ないなどのキーワードが浮かびあがる。また、特に「交流会は、大変であるけど楽しく、よかった」「漁業の見学や私達で行う料理はいい」などの交流会や見学が主体となっている活動の様子がつながっている。また、「浜の女性のくらし、自分たちのくらしの相互関係」や「海苔の仕事は忙しいけど、一緒にイベントなどの企画でおしゃべりしたい」などの親近感を感じている様子が伺える。しかしながら、魚食普及や魚食消費といった産業との結びつきが薄いのも認められた。交流会を行いつつも、水産業振興を図るためには、消費者の需要を引き出す内容となるように、「消費・購入」などの単語との結びつきが得られるように、交流会の内容に、千葉の水産物消費を促す「情報」を積極的に取り入れることが重要であろう。

(2) 第13回千葉県協同組合女性交流会

農林水産業生産現場での体験や暮らしに共通する課題の話し合い等の交流を通じて、生産者と消費者が相互に交流することを目的として開催した。

平成17年7月6日に木更津市内で千葉県生活協同組合連合会・JA千葉女性部協議会・千葉県協同組合提携推進協議会・千葉県漁協女性部連絡協議会が主催で～貝むきにチャレンジ～をテーマに千葉県産のアサリやバカガイの加工を兼ねた料理講習会を実施し、漁業にかかる知識や情報交換を行った(写真1, 2)。

49名の参加があり、漁協女性部からは13名が出席した。

アサリ・バカガイのむき身・茹で加工を参加者全員が体験し、アサリ炊き込みごはん・かき揚げ・アサリの味噌汁などを消費者・農業者のみなさんと一緒につくり、昼食をとりました。

昼食後には、消費者・農業者のみなさんと意見交換会を行いました。意見交換会で出た意見および、アンケート結果から、(1)と同様に分析を行った。その結果を図2に示した。

この図を解析すると、「アサリ・バカガイの砂抜きなど調理法をしらないと大変であるが、献立はバラエティーに富んだ機会が得られた」、「貝の調理・料理体験・講習は料理方法を学べて良い」、「参加することで、海の仕事の話と一緒にしゃべりをしたり、交流することは楽しい」、「おいしくってびっくりした」などの解釈ができる。

交流会の内容が、料理講習会と意見交換の場であったことから目的としては、参加者の賛同を大まかには得られたことが示されている。

しかしながら、魚食普及や魚介類の消費拡大には、明確につながる意見はでていない。



写真1. アサリのむき方を指導



写真2. 料理講習会で皆さんと一緒に作ったアサリ・バカガイ料理

魚介類の消費拡大を図るためには、交流会の内容に、購入方法についての情報提供などを盛り込むなどの積極的な取り組みが必要であろう。

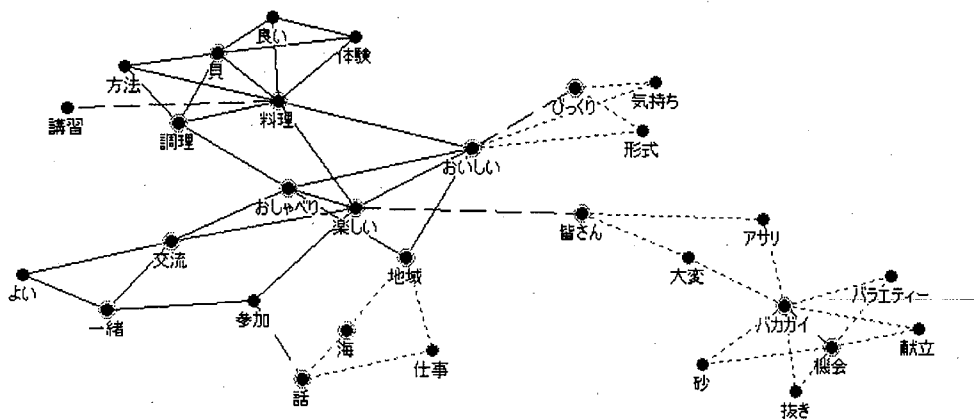


図2. 第13回千葉県協同組合女性交流会での意見・アンケート結果のコメント分析

(3) 漁村と都市部のネットワーク

平成14年度から県が実施している「浜の女性活動促進事業」を受けて、右記のグループの交流を行ってきた。過去に交流を行ったグループのネットワークを作り、今後の新たな交流の場を設ける機会や検討する場として意見交換を行ってきた。

【グループ交流を実施した団体一覧】

- 柏生活クラブ（平成14年度交流）
- 柏消費者の会（平成14年度交流）
- 生活協同組合ちばコープ
 - 君津地区センター（平成15年度交流）
 - 安房地区センター（平成16年度交流）
- 銚子地区漁協女性部連絡協議会（平成14年度交流）
- 木更津地区漁協女性部連絡協議会（平成15年度交流）
- 夷隅地区漁協女性部連絡協議会（平成16年度交流）

(4) 新たな交流会

都市と漁村のネットワークを通じて、新たな交流会を平成18年1月18日に、消費者（柏生活クラブ・柏消費者の会）と生産者（木更津地区漁協女性部連絡協議会）で行った。

この交流会では、木更津地区の金田漁業協同組合のノリ加工施設見学・直販所見学を通じて、ノリの出来るまでを学ぶ、おいしいノリの選び方や食べ方を学ぶ、そしておいしいノリを購入してもらうことを目的とした（写真3）。アンケート結果から、参加者は、見学について「勉強になった」「また来てみたい」など3割から5割程度であった。直売については、8割程度の方が「近くで購入できたら、いい」と感じ、「今後も来てみたい」と感じたのは3割程度であった。



写真3. ノリ加工施設見学

また、交流会については、私たちが手作りで

作ったノリの佃煮を食べていただき、おいしいと好評でした。またノリの佃煮の作り方が参考になった。生ノリの扱いに興味があって、とても勉強になった。などの意見が多かった。なかには、もっといろいろなお話がしたかったなどの今後の参考となる意見もあった（写真4）。



写真4. 昼食をとりながら意見交換会

6. 波及効果

柏消費者の会の会員が利用している柏市内の農産物直販所「かしわで」へは、水産物を置いてもらえるようお願いし、また、漁協等に対しては、水産物直販を働きかけることを行って、「橋渡し役」を担っています。参加された方々の「自宅のそばで手軽に美味しい水産物を購入したい！」という要望に応えることができるのも、近い将来になるでしょう。

7. 今後の課題や計画と問題点

これまでの多くの魚食普及活動を実施してきた。今まで実施してきた料理講習会や交流会をつうじて、お互いのことをよく知りあうことで、信頼関係を築くことができた。

その反面、水産物の消費拡大には、目に表れる成果として表れることが少ない。

都市と漁村のネットワークを通じて、情報交換をすることで、消費者の皆さんの望むものを理解することができ、漁業者である私たちの“おいしい千葉の水産物を食べてもらいたい”という思いも理解してもらうことができた。そして、信頼関係を築き上げていくことにより、さらに一步踏み込み、料理講習会等の魚食普及活動だけでなく、水産物の消費拡大のため、販売促進を図る交流会を開くことができた。

千葉県漁協合女性部連絡協議会の活動のひとつとして、消費者の方々へ新鮮でおいしい千葉の水産物を販売へつなぐ“コーディネイター”として役割を見出すことができた。しかしながら、交流会にかかる費用負担や、女性部員の減少に伴う人材不足などの問題が残されている。

それでも、交流会の実施、ネットワークの拡大をいう流れを、今までは県の主導で実施していたが、今後は、私たち自身で意見交換の場を設けることとした。

お互いに納得のいく水産物の需要と供給の流れをつくるための一助として今後も活動していきたい。

